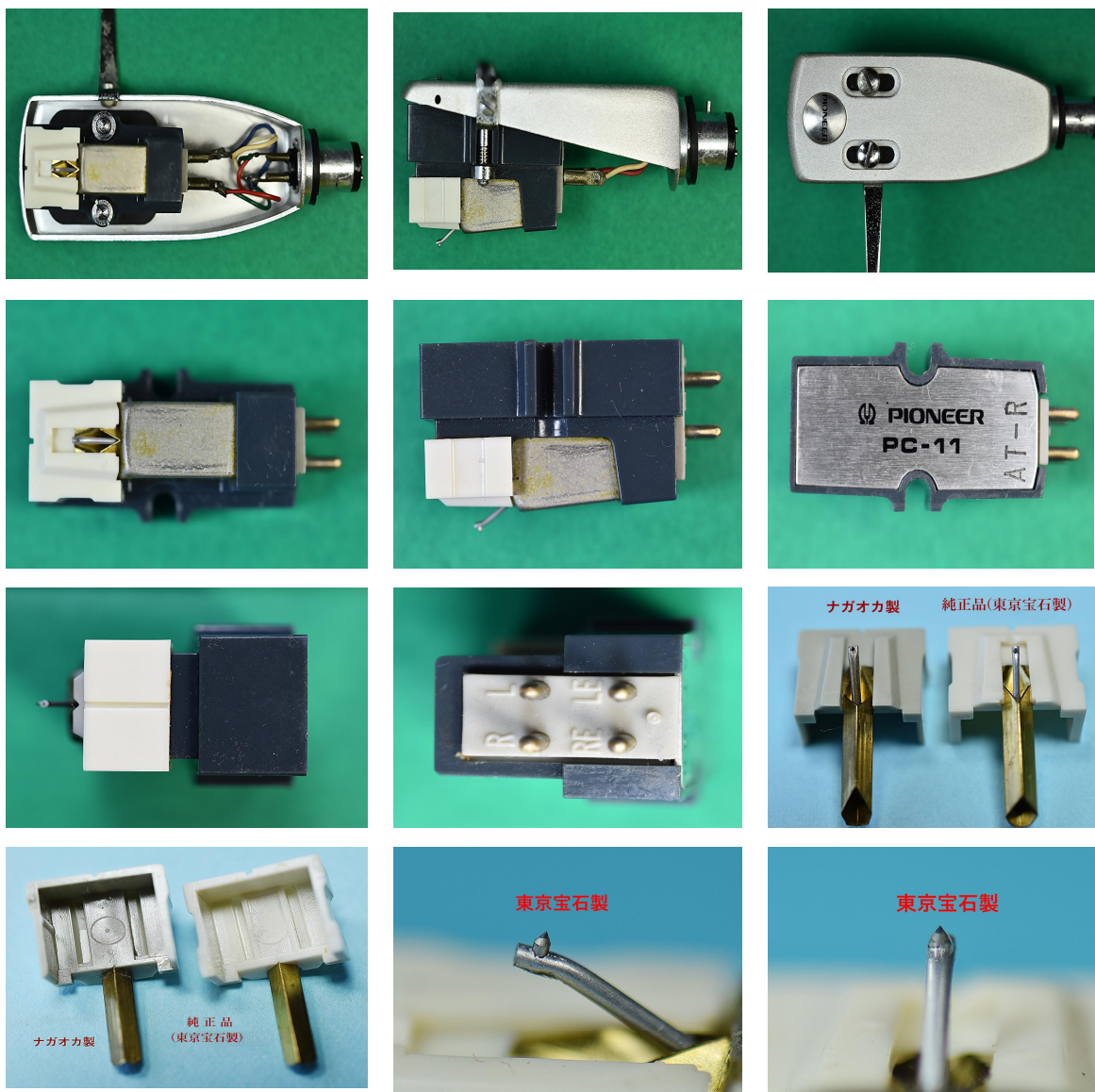


NO:46.1.1 形式:PC-11(1) パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



① MM、② 15- 20,000Hz ③ 5mV ④ 0.6mil ⑤ 6.8g ⑥ 2.5 ～ 3.5(2.0 標準) ⑦⑧ 50-100 ⑨ 24
⑩、⑪ 25 ⑫ 2 ⑬ 10 ⑭ 3.6k、⑮、⑯ 1970.6 ⑰ヤフーオーク⑱ 6,000 ⑲、⑳73SG

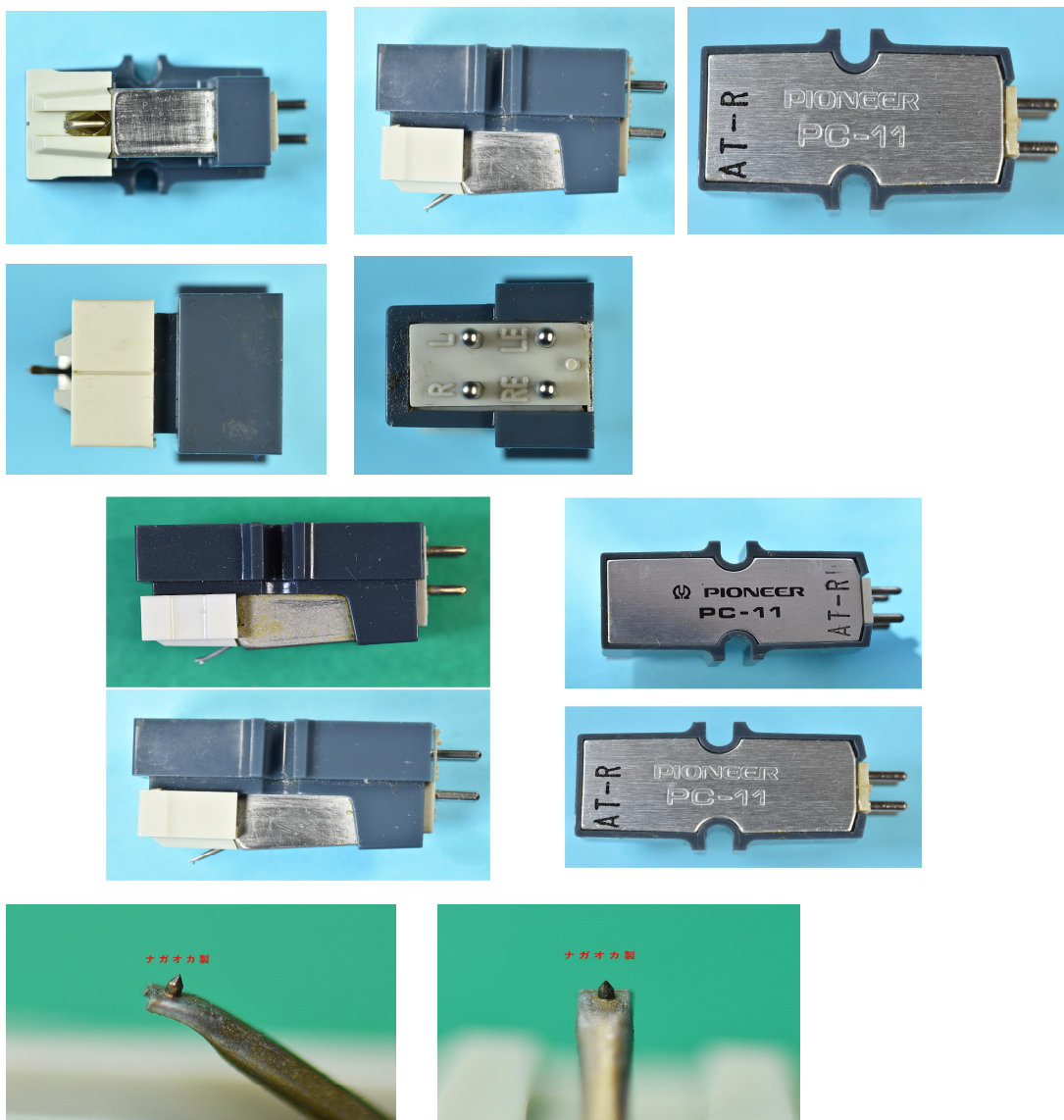
パイオニアは1947年設立のオーディオ専門メーカー。1970年代の中盤までMM型、同年代後半からMC型カートリッジ（2機種のみ）を販売した。（インターネット情報）

PC-11は単体及びプレーヤー（PL-A200,PL-12E,exc）装着の両方で販売しています。

スタイラス（PN-11）には純正品（東京宝石製）、少し色の異なる乳白色のPN-11（ナガオカ製）などがあります。緑色のPN-14、赤色のPN-15、青色のPN-20も装着出来ます。これらのカートリッジはボディサイズは同じですが、発電機構は異なります。また、スタイラス色も区別されています。PC-20が最も古く、高級仕様で製造された製品のようです。（当方作成PC-20参照）

コメント：2gで試聴したところ、PN-11 東京宝石製は伸び伸びした明るい、透明感のある音です。低域から高域までバランスが取れています。ナガオカのPN-11は低域が少しツマリ気味です。

NO:46.1.1 形式:PC-11(2) パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



① MM、② 15- 20,000Hz ③ 5mV ④ 0.6mil ⑤ 6.8g ⑥ 2.5 ～ 3.5 (2.0 標準) ⑦⑧ 50-100 ⑨ 24
⑩、⑪ 25 ⑫ 2 ⑬ 10 ⑭ 3.6k、⑮、⑯ 1970.6 ⑰ヤフーオーク⑱ 6,000 ⑲、⑳73SG

PC-11 は単体及びプレーヤー (PL-A200,PL-12E,exc) 装着の両方で販売しています。
性能などは全ページと同じです。

PC-11 の裏面の表示ですが、同じ機種でも表示が異なっています。PC-11 から 20 までの機種は73SG が最後の記載で以後は掲載されていません。PC-110 などの三桁機種の販売に移行しています。

試聴コメントは前ページを参照願います。

NO:46.2 形式:PC-12 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)

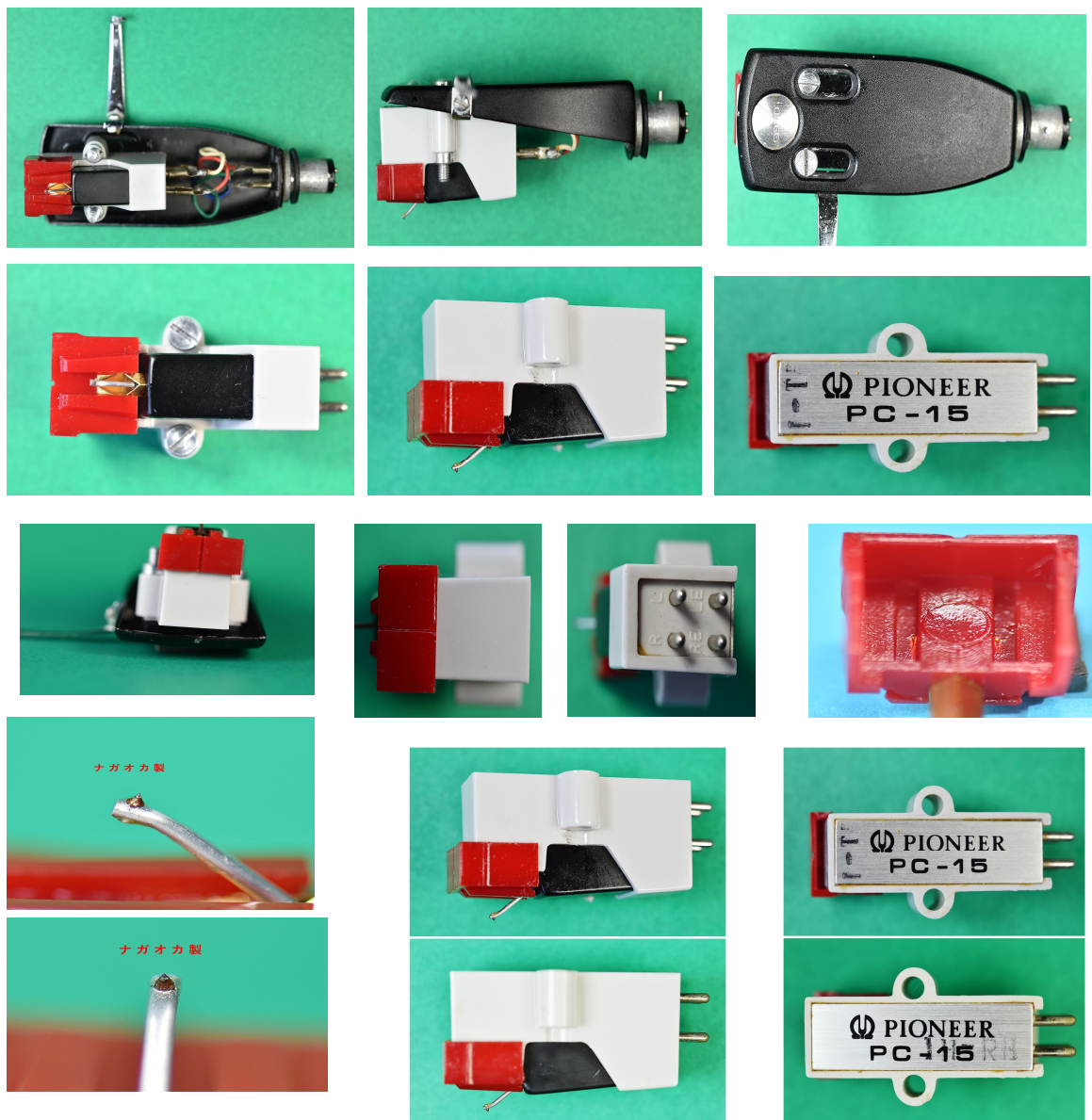


① MM、② 20- 23,000Hz ③ 4mV ④楕円ダイヤ ⑤ 5.4g(実測)⑥ 2.5 ～ 3.1(2.8 標準)⑦、⑧ 30-100 ⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰ヤフーオーク⑱、⑲、⑳インターネット

特記事項：PC-12 は PC-110 系のカートリッジで、海外向けモデルらしい。写真のスタイラスは赤色の PN-12（純正品マーク付き東京宝石製）と PN-12(東京宝石製)です。

コメント：2.2g で試聴したところ、純正品マーク付きは伸び伸びした明るい、透明感のある音で、低音が強めです。東京宝石製は低音が控えめで低域から高域まで滑らかな聞きやすい音です。出力は純正品より 1mV 位少なく感じます。(要目の 2.8g より少なめの 2.2g 針圧でしたが、違和感はありませんでした。)

NO:46.3.1 形式:PC-15(1) パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)

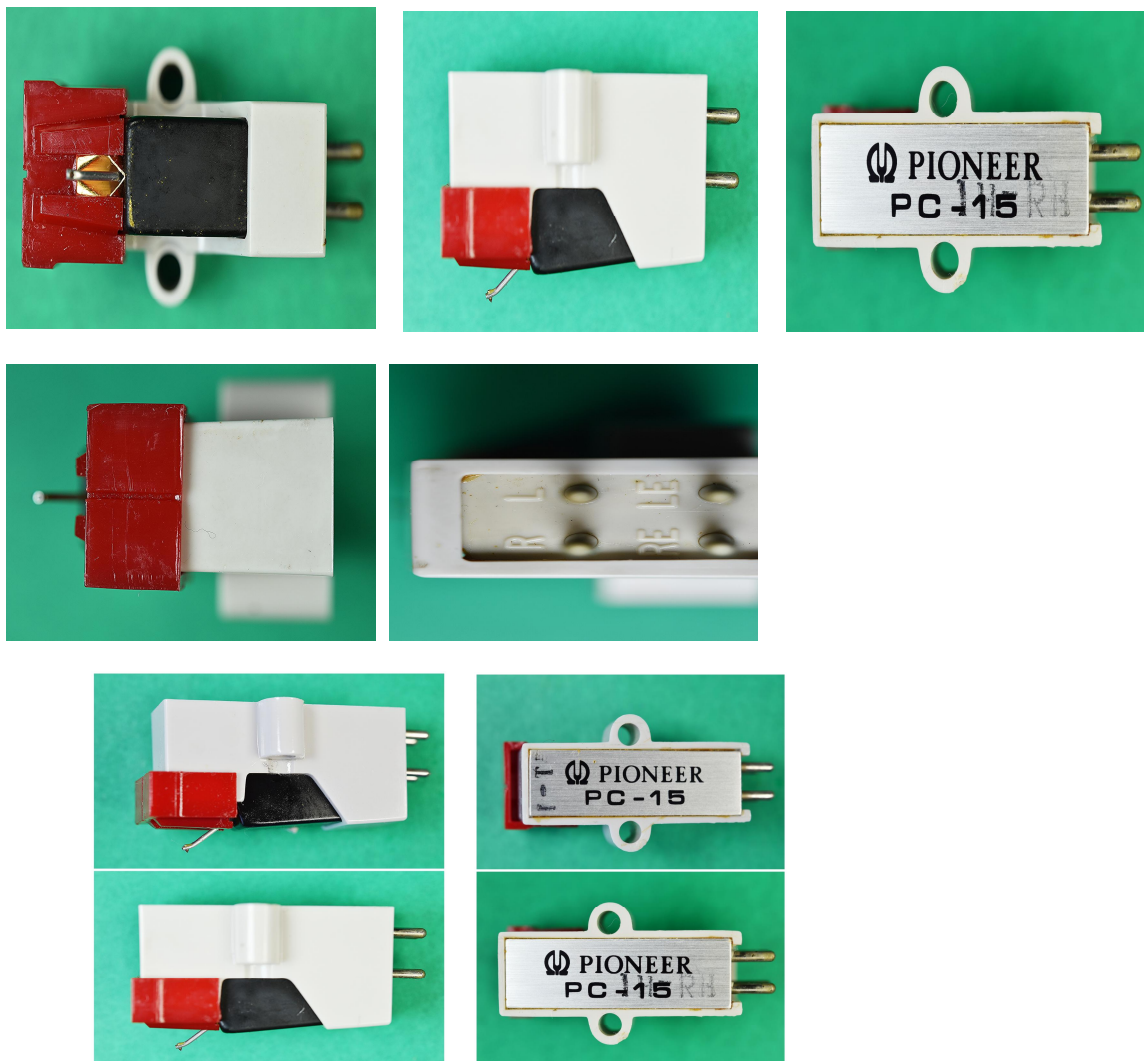


① MM、② 15- 23,000Hz ③ 3.5mV ④ 0.5mil ⑤ 6.7g ⑥ 1.7 ～ 2.5(2.0 標準) ⑦、⑧ 50-100 ⑨ 20
⑩、⑪ 20 ⑫ 1.5 ⑬ 12 ⑭ 45k ⑮、⑯ 1969.6 ⑰ヤフーオーク⑱ 7,500 ⑲、⑳ '73SG

特記事項：PC-15 は PC-11 の前モデルカートリッジ、ボディ外形は似てますが、発電機構は異なります。スタイラスは赤色の PN-15(ナガオカ製)です。2 個のボディを保有、機種は同じですが、ボディの色（上段は少し灰色）、裏面の表示も異なります。

コメント：2.0g で試聴したところ、PN-15 は明るい明瞭感のある暖かい感じの音です。低音は PN-11 と比較すると少しツマリ気味です。

NO:46.3.2 形式:PC-15(2) パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)

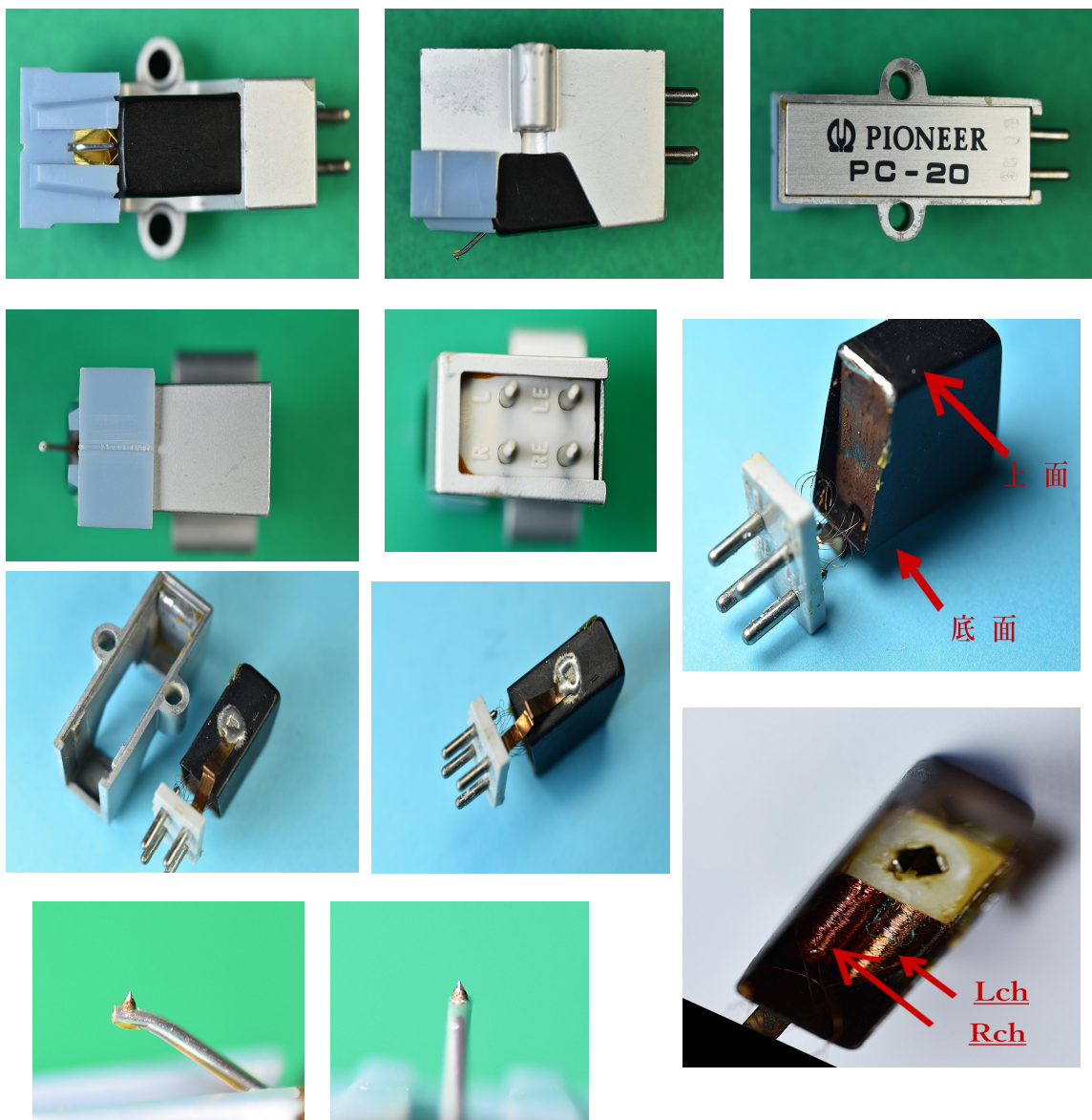


① MM、② 15- 23,000Hz ③ 3.5mV ④ 0.5mil ⑤ 6.7g ⑥ 1.7 ～ 2.5(2.0 標準) ⑦、⑧ 50-100 ⑨ 20
⑩、⑪ 20 ⑫ 1.5 ⑬ 12 ⑭ 45k ⑮、⑯ 1969.6 ⑰ヤフーオーク⑱ 7,500 ⑳ '73SG

特記事項：PC-15 は PC-11 の前モデルカートリッジ、ボディ外形は似てますが、発電機構は異なっています。スタイラスは 1 個しか保有してない。赤色の PN-15(ナガオカ製)で前ページと同じものです。ボディは 2 個保有、機種は同じですが、ボディの色(上段は少し灰色)、裏面の表示も異なっています。

コメント(前ページと同一)：2.0g で試聴したところ、PN-15 は明るい明瞭感のある暖かい感じの音です。低音は PN-11 と比較すると少しツマリ気味です。

NO:46.4 形式:PC-20 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



① MM、② 10- 25,000Hz ③ 3.5mV ④ 0.5mil ⑤ 8.2(実測)⑥ 1.2 ～ 1.8(1.5 標準)⑦ 300 ⑧ 50-100k ⑨ 25、⑩、⑪ 25、⑫ 1.0 ⑬ 12 ⑭ 4.5 ⑮、⑯ 1968.10 ⑰ヤフーオーク⑱ 10,000、⑲、⑳ '73SG
特記事項：PC-20 は 1968.10、PC-15 は 1969.6 、PC-11 は 1970.6 の販売です。

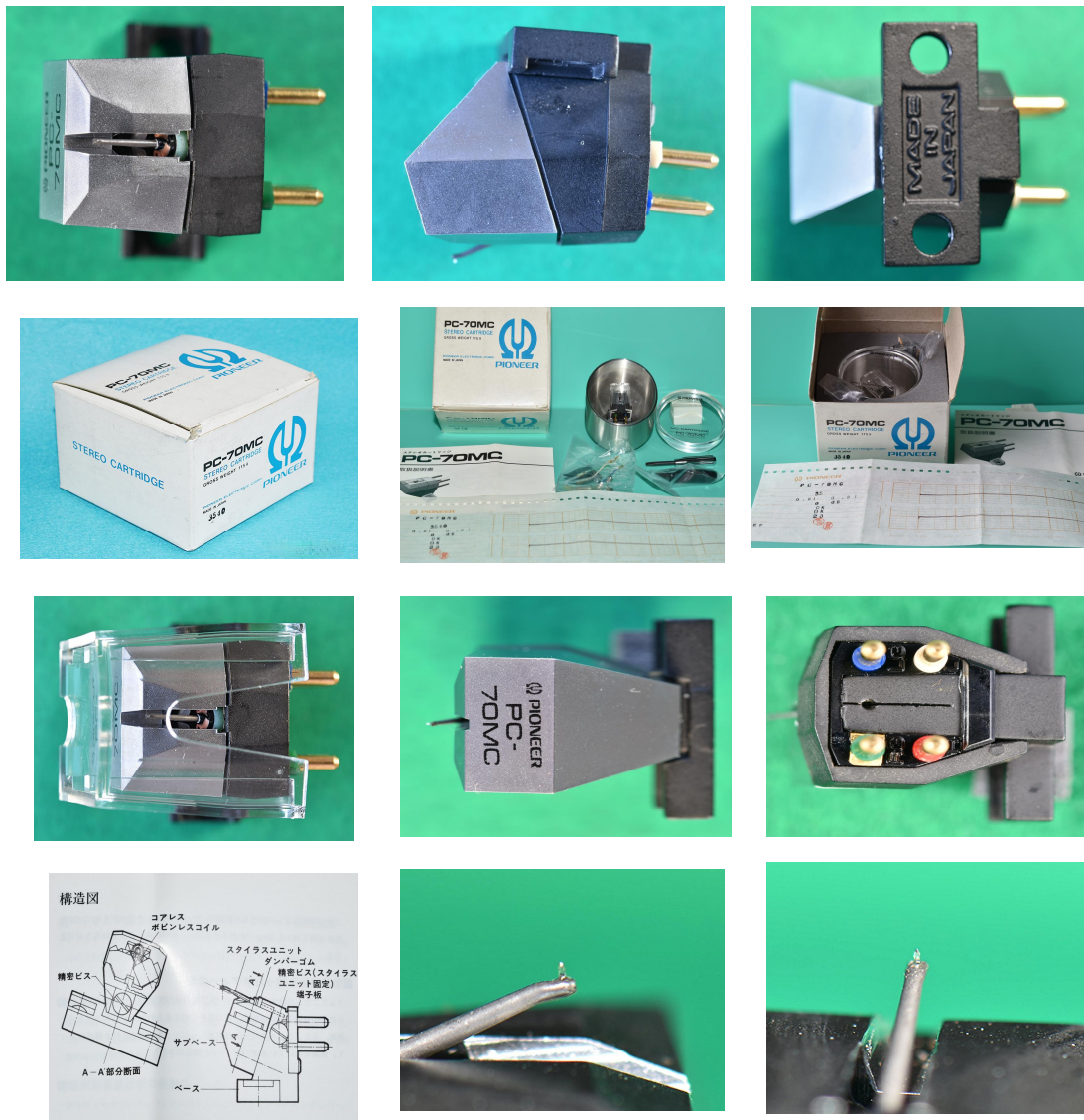
PC-20 が最も古い、高級仕様で製造された製品のようです。

当方が入手した製品は Lch 断線で、故障状態でした。分解して中を覗いてみました。

右側の写真で錆の発生した金属板があり、これが蓋のようになり、発電部が完全に磁気遮蔽されています。ボディ表面には銀色の塗装がなされています。スタイラスのチップには大きめのダイヤが使用されています。断線の原因は Lch コイルの表面が金色に変色していますので焼損し短絡したのかと思います。Rch コイルはエナメル色で音も出ます。

試聴：ボディが断線しているので PN-20 スタイラスのチェックのため PC-11 ボディで試聴しました。明るい、明瞭感のある少し暖かみを感じる音でした。低音には少しツマリがあります。

NO:46.5 形式:PC-70MC パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)

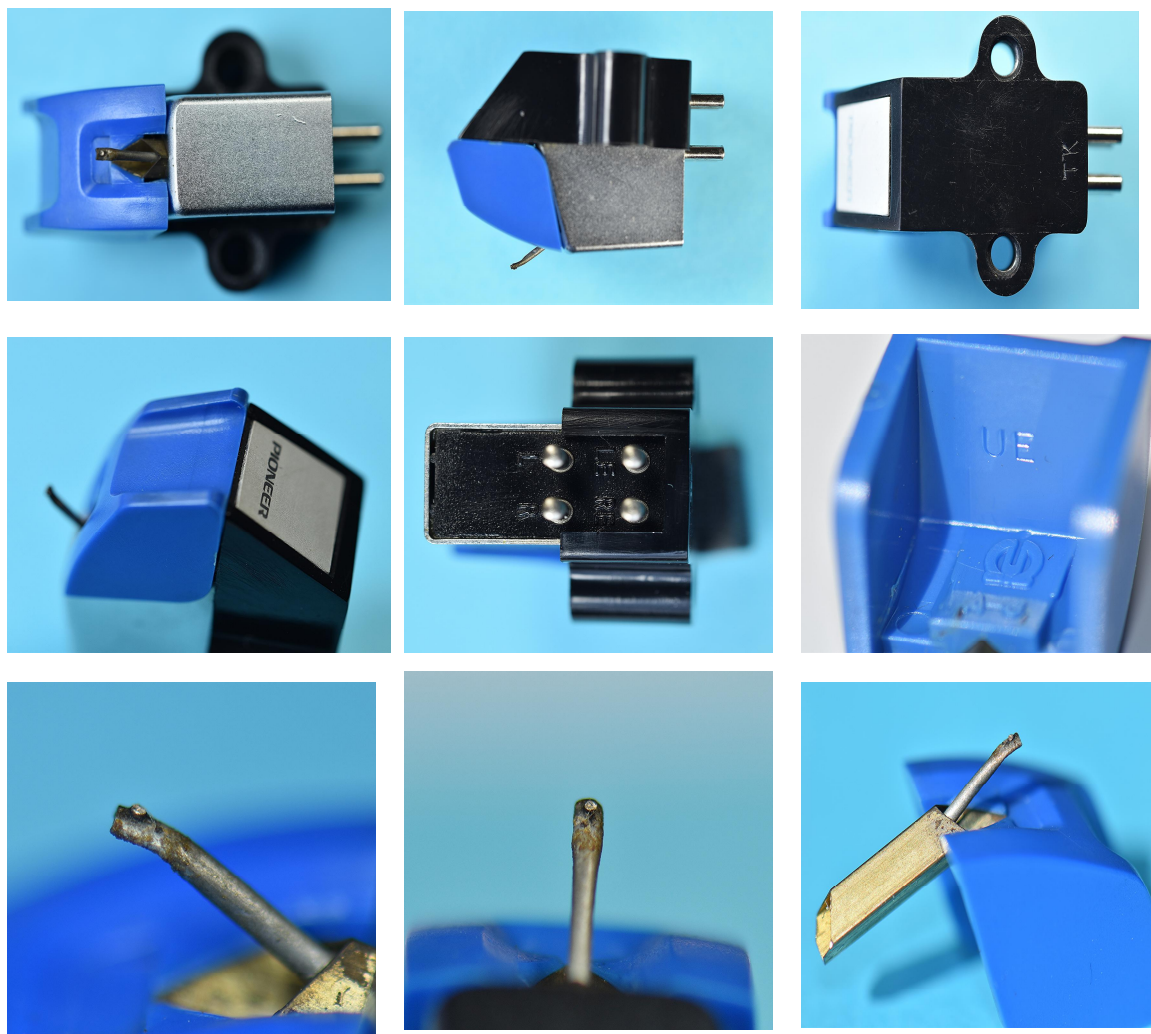


① MC、② 10 - 80,000Hz ③ 0.2mV、④ 0.2 x 0.8mil 楕円研磨、⑤ 4g、⑥ 0.9 ~ 1.5(1.2 標準)、⑦、⑧ 40-100、⑨、⑩、⑪ 35、⑫ 0.75、⑬ 16、⑭ 38、⑮ 1.0、⑯ 1980/10、⑰、⑱ 45,000、⑲、⑳取扱説明書、SG'84

特記事項：パイオニア独自の左右独立6極4マグネット磁気回路、磁気回路をコンパクト化して自重を4gに軽量化、無酸素銅コアレス、ホビンスコイル、軽量化した。無共振化したアルミホテイ。純ベリリウムテーパードパイプ、

コメント：試聴したところ透明感と暖かみを感じる美しい音です。

NO:46.6 形式:PC-110 パイオニア (Pioneer) パイオニア (株)



① MM、② 15 - 25,000Hz ③ 3.5mV、④ 0.5mil、⑤ 5.4g(実測)、⑥ 1.8 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦ 500、
⑧ 30-100 ⑨ 20 ⑩、⑪ 25 ⑫ 1.5 ⑬ 20 ⑭ 2.5 ⑮、⑯ 1973.1 ⑰、⑱ 5,500 ⑲、⑳ '73SG

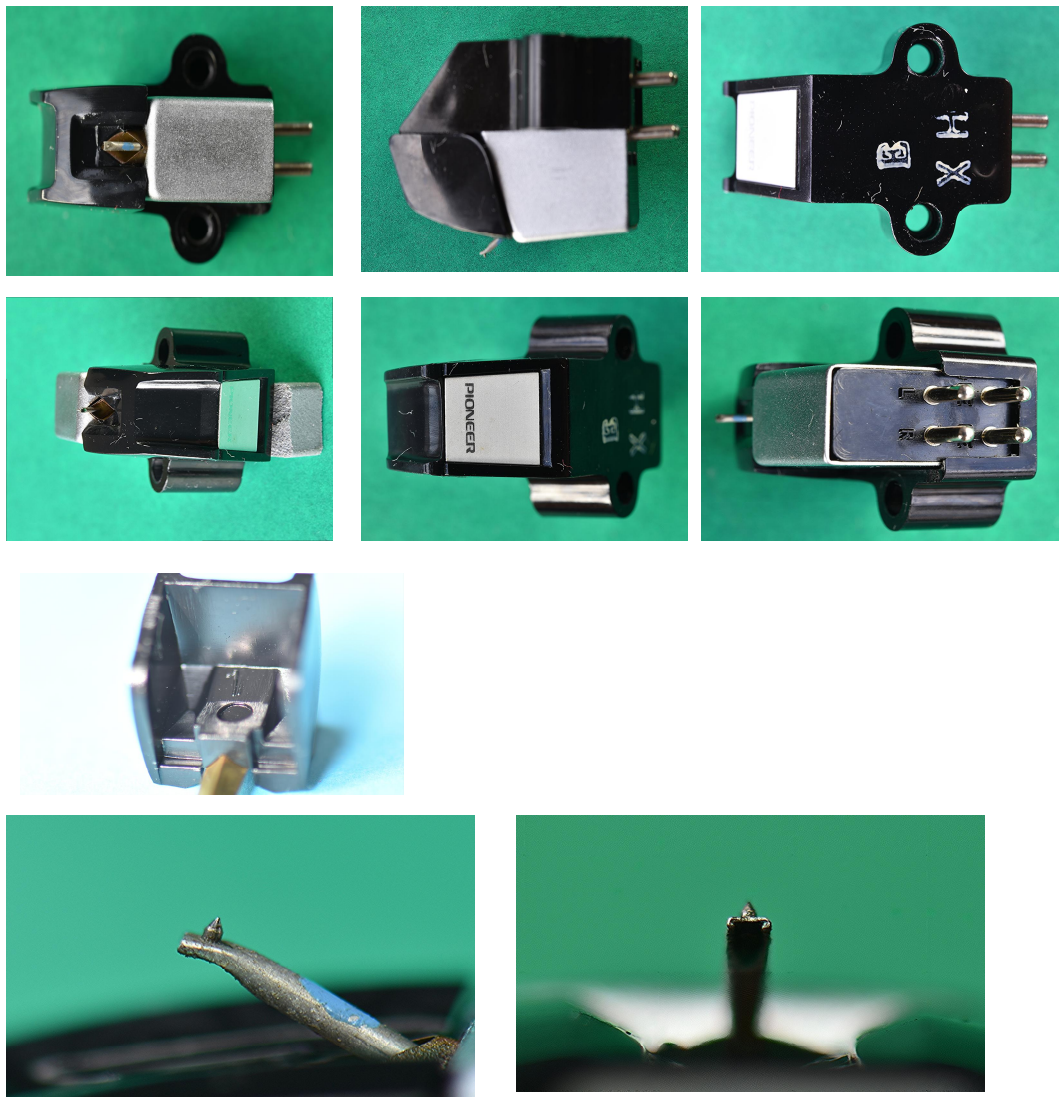
パイオニアの初期の代表的なカートリッジ、同社の多くのプレーヤに装着されています。形名表示がボディにないので PC-110 / II との区別が困難ですが、幸いなことに自重比較 (5.4g と 5.1g) から推定出来ました。ボディの底面の文字 (Tk は彫り込み文字) にも相違があります。PN-110 のスタイラスは内面にパイオニアのマークがあり、純正品です。残念ながら針先欠損で入手しました。

PC-150 用黄色 PN-150 (パイオニア純正品)、海外向けモデル PC-12 用赤色 PN-12(東京宝石製)も装着可能でした。PN-12 は形状の違いなどが少しあるため、レコード面に接触する事がありますので注意が必要でした。

試聴には純正品が針先欠損なので PC-110/II 用のスタイラス、針圧 2.0g で試聴しました。すごくやさしい滑らかな音です。低音は少なめです。

PC-110/II の音と比較すると PC-110/II は音の透明感が優れています。低音も豊かでした。出力電圧は同じ感じでした。

NO:46.7 形式:PC-110 II パイオニア (Pioneer) パイオニア (株)



① MM、② 15 - 25,000Hz ③ 3.5mV、④ 0.5mil、⑤ 5.1g(実測)、⑥ 1.5 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦、⑧ 30-250、⑨ 20、⑩、⑪ 25、⑫、⑬ 20、⑭、⑮、⑯ 1976/3、⑰、⑱ 6,500、⑲、⑳ SG'78
パイオニアの初期の代表的なカートリッジ、同社の多くのプレーヤに装着されています。形名表示がボディにないので PC-110 との区別が困難ですが、区別方法については PC-110 を参照願います。ボディの底面の文字はペンキで描かれています。

黒色スタイラス PN-110 II はメーカー不明です。PC-150 用黄色 PN-150 (パイオニア純正品)、海外向けモデル PC-12 用赤色 PN-12(東京宝石製)も装着可能でした。PN-12 は形状の違いなどが少しあるため、レコード面に接触する事がありますので注意が必要でした。

2.2g で試聴したところ高域から低域までバランスのとれた明るい音で低音は少なめですが、綺麗です。疲れな音と思います。3 個のスタイラスを聞き比べると PN-110 II の音が明瞭感、切れも良いと感じた。PN-110 II の出力電圧は PN-150、PN-12(東京宝石製)より 1 m V 位高い。(方位計でカチレバー内の磁力を調べたら相違があった。)

NO:46.8 形式:PC-131 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



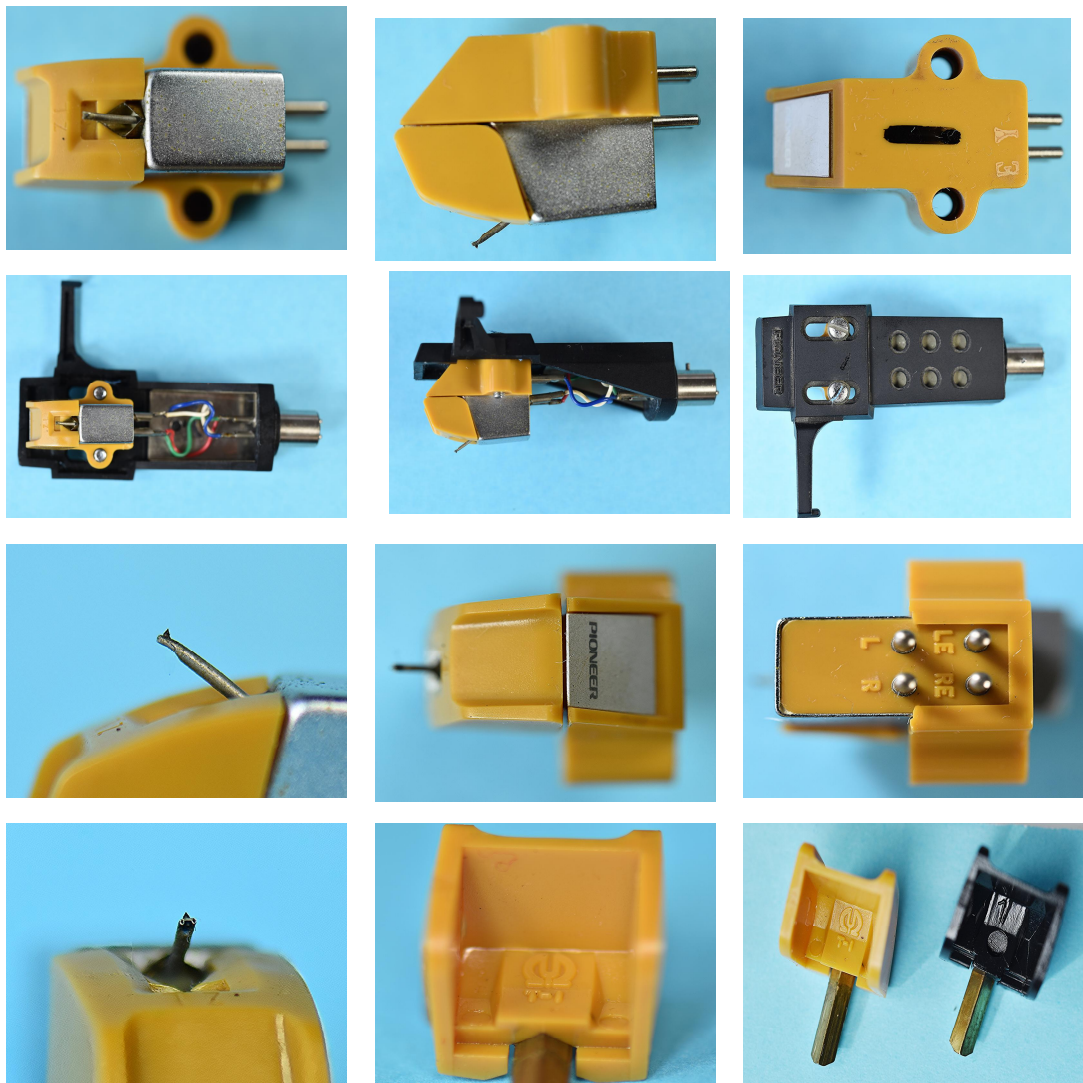
① MM、② 15 - 28,000Hz ③ 4mV、④ 、⑤ 5.4g、⑥ 1.5 ～ 2.5 (2 標準)、⑦、⑧ 30-250、
⑨、⑩、⑪ 25、⑫、⑬ 10、⑭、⑮、⑯ 1976/3、⑰、⑱ 7,500、⑲、⑳ SG'78

パイオニアの初期のカートリッジです。針先のデーターが分からないのが残念です。

スタイラスの嵌合機構がパイオニアの他のカートリッジと異なっています。オーディオテクニカの AT-VM3、オーディオライフの AC - 101 に似ています

2.2g で試聴したところ明るい透明感のある音で低音も綺麗です。

NO:46.9 形式:PC-150 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



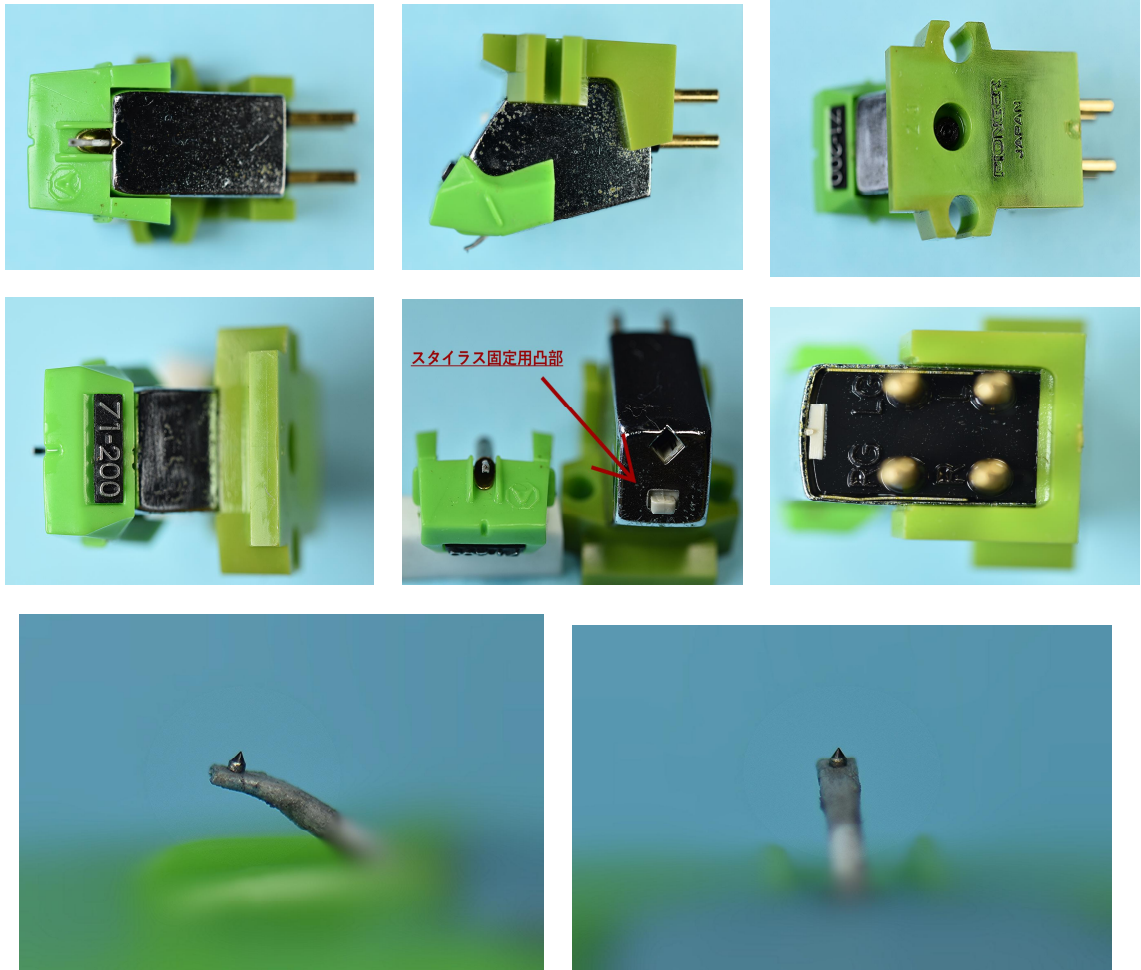
① MM、②、③ 3.5mV、④ 0.5mil、⑤ 5.3g(実測)、⑥ 1.8 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳インターネット

特記事項：PC-110 IIと同じ系統のカートリッジ、スタイラスは PC-110 IIで使用出来るものが全て装着出来、PC-150 の出力は 1 m V 位小さい。(方位計でカチバー内の磁力を調べたら相違があった。)

ボディはPC-150、スタイラスはPN-150(パイオニアの純正品)です。

コメント：2.0g で試聴したところ、滑らかで柔らかい美しい音ですが、ツヤがありません。低音も綺麗です。

NO:46.10 形式:PC-200 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



(パイオニア PL-280、360 他のプレーヤーに PN-200 として装着)

① MM、② 10-32k、③ 2.5mV、④ 0.5mil、⑤ 5.0g(実測)、⑥ 1.7 ~ 2.3(2.0 標準)、⑦、⑧ 50k、
⑨、⑩ 170-300、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳'80SG

特記事項：1980 年のステレオガイドに初めて登場した。この年までのプレーヤー用カートリッジとしては PN-110 II 装着が多かったが、1980 年には PN-200 が多数装着されている。

写真にもありますが、スタイラスの固定用凸部が珍しい。出力は小さいが、周波数範囲が拡大されている。

コメント：2.0g で試聴したところ、滑らかで柔らかい歪み感のない音です。低音の音量が多く出ています。110 II の改善版ですが、低音の音量が多く出るような改善かと思えます。

NO:46.11 形式:PC-330 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



① MM、② 10 - 28,000Hz ③ 3mV、④ 0.5mil、⑤ 5.1g、⑥ 1.5 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦、⑧ 30-100、
⑨、⑩、⑪ 25、⑫、⑬ 25、⑭、⑮、⑯ 1973/1、⑰、⑱ 9,500、⑲、⑳ SG'75

コメント：このカートリッジのシリーズに PC-330 II カートリッジがありますが、外観形状のステイ
ス側板に PIONEER の表示がないので、本製品は PC-330 です。軽針圧、コンプライアンス
が少、負荷抵抗に変化があります。

スタイラスは多数のメーカーが提供しており、側板の色が異なるようです。黒緑色（純正）、濃緑
色（東京宝石）、乳白色（ナカホ）、黄土色、紺色（KOWA）などです。純正品（楕円）スタ
イラスは側面の隔板が右側と左側で異なっています。高域から低域まで透明感のある伸び
伸びした美しい音が出ています。